



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Questions of Immortality and Inquiring Mind in the Ghost Stories of Henry James and Edith Wharton [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	宮澤, 優樹
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第13411号
Issue Date	2019-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/74449
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Yuki_Miyazawa_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）

氏名：宮澤 優樹

主査	教授	竹内 康浩
審査委員	副査	教授 瀬名波 栄潤
	副査	教授 野村 益寛

学位論文題名

Questions of Immortality and Inquiring Mind

in the Ghost Stories of Henry James and Edith Wharton

(ヘンリー・ジェイムズとイーディス・ウォートンの幽霊物語における
不死をめぐる問いと探究心)

・当該研究領域における本論文の研究成果

19世紀末から20世紀初頭にかけての英米文学を代表する作家として知られるヘンリー・ジェイムズとイーディス・ウォートンは、一般的にはヨーロッパ大陸とアメリカ大陸との間に横たわる文化的差異といった視点から論じられることの多い作家である。しかし本論文は、そうした批評的傾向からは一定の距離を置き、彼らの残した幽霊物語に視点を絞り、不死をめぐる探求という独特の観点から論じている。この取り組みは、着想の点から判断すると、*The Turn of the Screw* のような例外を除いて、注目されることが多いとはいえない作品群に光を当てるという意味で、一定の成果を認めることができる。本論文ではしばしばウィリアム・ジェイムズへの言及がなされているが、彼の思想においても傍流であろう不死に関する探求と両作家の幽霊物語を比較検討することにより、文学と思想の両面から、そのような探求の文化的重要性を浮かび上がらせようとする企図も評価に値する。また、本論文はそのような探求が文学作品においてどのような形で表現されているかを、具体的に論述している。すなわち、ウォートンの場合は宗教やスピリチュアリズムの考え方が正しいと仮定することを作品の基礎としており、そしてジェイムズの場合は、探求の前提となる好奇心が登場人物に付与されることにより、同じく好奇心によって突き動かされるジャンルである探偵小説との類似性が表れていることの2点である。これらの分析手法、アプローチには高い独自性が認められ、ジェイムズとウォートンに関する批評史に新たな観点を加えうると評価してよい。

なお本論文は、アメリカの学術研究誌に掲載された1本の査読論文、さらに国内の学会誌に掲載された2本の査読論文の内容を含むものである。

・学位授与に関する委員会の所見

審査委員会はこれらの成果を高く評価し、また巧みな構成や文体も一つの長所であると考えたが、その一方で、課題として残された問題点についても執筆者へ指摘を行った。第一に、取り扱う2名の作家についての分析手法や、言及する分量にアンバランスさが認められる点である。具体的には、ウォートンを論じる際は文化的背景を重視する方法が採られているが、ジェイムズの場合には作品内部の構成をもっとも重視した議論となっており、一本の論文としての全体の一貫性がより重視されてもよかったであろう。第二に、19世紀末の思想との連続性を考察するにあたり、作家の伝記的背景との関連性をより意識すべきであるとの指摘もなされた。議論の大きな枠組みにおいては妥当と思われるものの、当時の思想に関する厳密かつ精緻な議論には物足りなさを覚えた。

しかしながら、審査委員会は、本論文の新規性と独自の議論を構築しようとする意欲を、これらの問題点以上に評価することで一致を見た。口頭試問においても、これらの問題点を克服し、より高度な議論へと改善してゆくことが可能であることが確認できた。以上の審査状況に基づき、本審査委員会は全員一致で宮澤優樹氏に博士（文学）の学位を授与することが妥当であると判断する。